

シナリオ 大志の果て : 日下部太郎・グリフィス

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂手, 一成 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/00029086

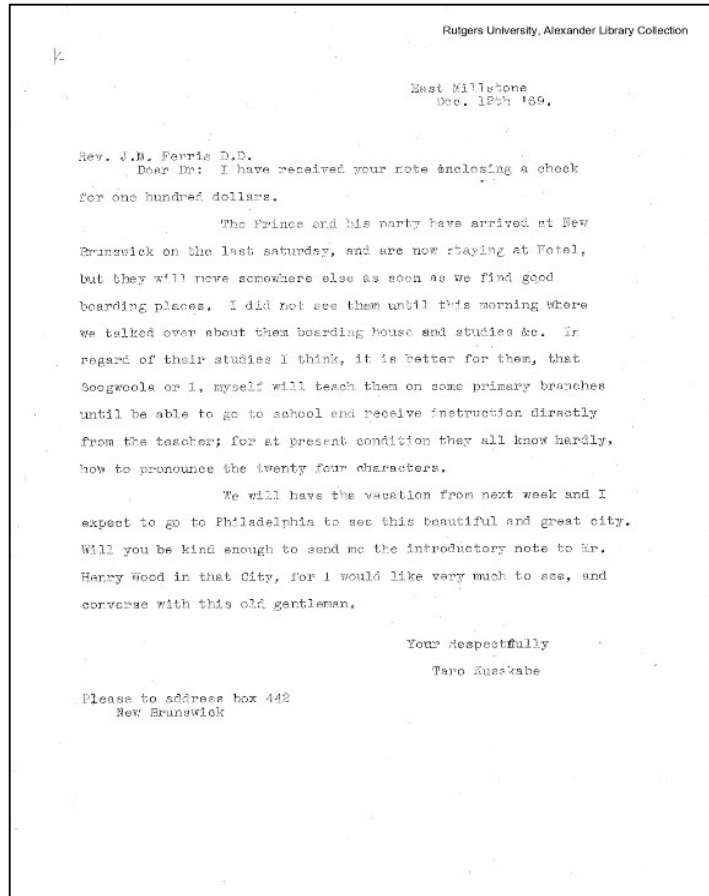
付録.. 日下部太郎新出資料

「W・E・グリフィス来福百四十年記念事業
お雇い外国人教師グリフィス展」が福井大学
附属図書館主催で開催された平成二十三年
(二〇一一)以降に受け入れた日下部太郎に
関する資料を紹介する。

一・ 日下部太郎のフェリス宛書簡

神戸大学国際文化学部 西脇彩央著 『司馬遼
太郎フェローシップ研究報告・横井大平と熊本洋
学校…洋学を求めた― 若者の幕末維新』(2019/

02/22) 内に収録



日下部太郎より J.M.フェリス宛
1869年12月12日付書簡
(米・ラトガース大学
グリフィスコレクション収蔵)

East Millstone
Dec. 12th '69.

Rev. J.M. Ferris D.D.

Dear Dr: I have received your note enclosing a check for one hundred dollars.

The Prince and his party have arrived at New Brunswick on the last Saturday, and are now staying at Hotel, but they will move somewhere else as soon as we find good boarding places. I did not see them until this morning where we talked over about them boarding house and studies &c. In regard of their studies I think, it is better for them, that Soogwoola or I, myself will teach them on some primary branches until be able to go to school and receive instruction directly from the teacher; for at present condition they all know hardly, how to pronounce the twenty four characters.

We will have the vacation from next week and I except to go to Philadelphia to see this beautiful and great city. Will you be kind enough to send me the introductory note to Mr. Henry Wood in that City, for I would like very much to see, and converse with this old gentleman.

Your Respectfully
Taro Kusakabe

Please to address box 442
New Brunswick

イースト・ミルストーン
1869年12月12日

J.M.フェリス博士.

親愛なる博士へ：100ドルの小切手を同封した郵便を受け取りました。若君とその一行は先週の土曜日にニューブランズウィックに到着し、今はホテルに滞在しています。しかし、良い宿が見つかり次第、他の場所に移動する予定です。私は今朝、彼らの下宿先や勉強について彼らと話したのですが、それまでは彼らに会ったことがありませんでした。勉強に関しては、学校に行き、先生から直接指導を受けられるようになるまでは、スグウラか私が彼らに初歩的なことを教えるのが良いと思います。というのも、今のところ、彼らは皆、アルファベット 24 文字の発音すら知らないのです。

来週から休暇に入るので、フィラデルフィアに行って、その美しく素晴らしい都市を見たいと思っています。フィラデルフィアのヘンリー・ウッドさんへの紹介状を私に送っていただけますか？ その老紳士に会って、話をしたいのです。

敬具
日下部太郎

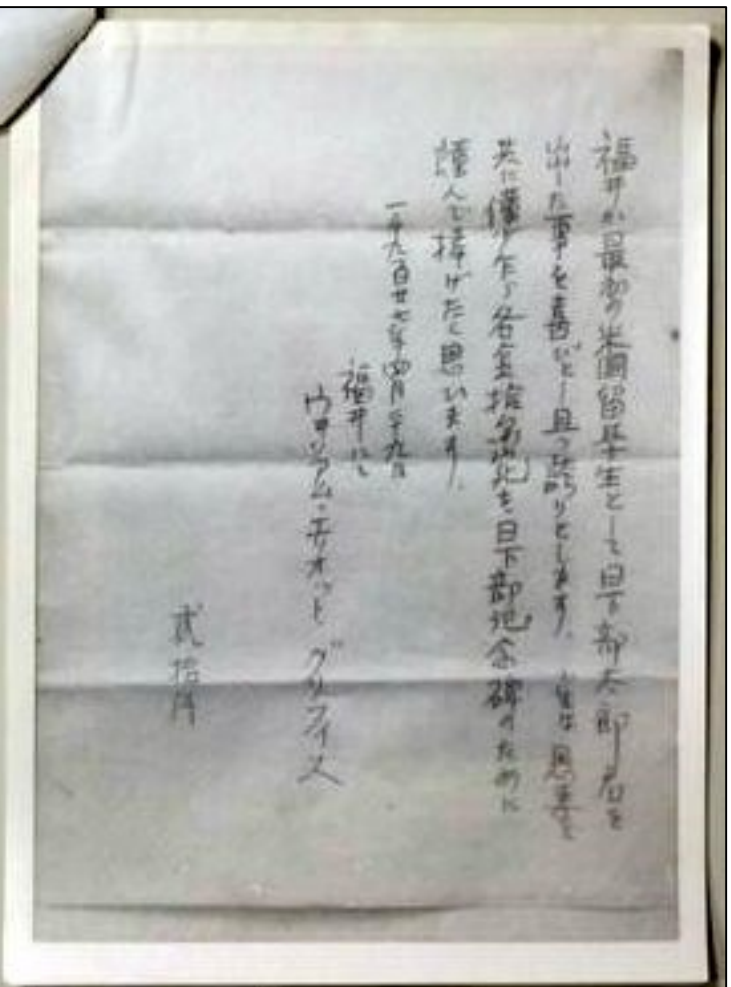
442 の住所に転送してください。
ニューブランズウィック

二・お雇い外国人資料（渡辺正雄氏収集）

1927・4 グリフィス二度目の来日の際に

日下部太郎の記念碑に奉げる追悼文 二枚

（萬年筆書き）



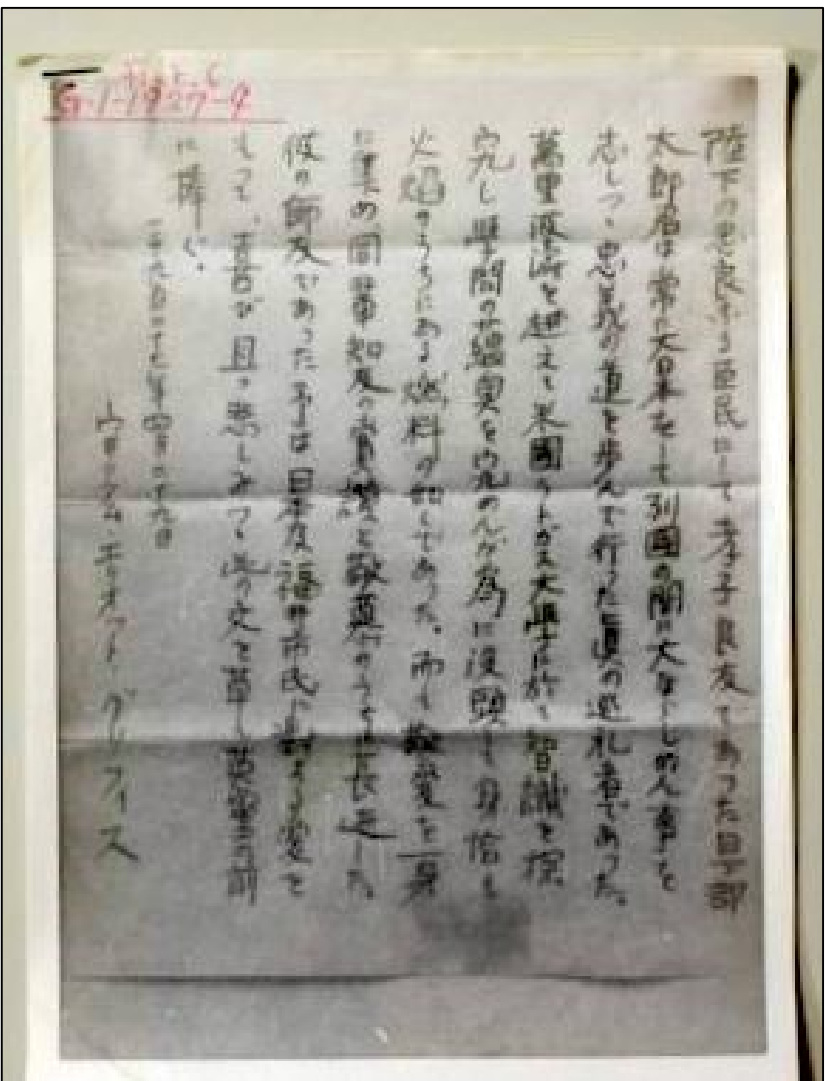
福井が最初の米国留学生として日下部太郎君と
出した事を喜びとし且つ誇りとします。小生は愚妻と
共に僅少乍ら各金拾圓を日下部記念碑のために
謹んで捧げたく思います。

千九百二十七年四月二十九日

福井にて

ウキリアム、エリオット、グリフィス

貳拾円



殿下の忠良なる臣民にして、孝子良友であつた日下部太郎君は、常に大日本をして列国の間に大ならしめ的人事を志しつゝ、忠義の道を歩んで行つた真の巡礼者であつた。萬里波濤を越えて米國ラトガース大学に於て智識を探究し学問の蘊奥を究めんが為に没頭し身恰も火焰のうちにある燃料の如くであつた。而して敬愛を一身に集め同輩知友の賞讃と敬慕のうちに長逝した。彼の師友であつた予は日本及福井市民に対する愛をもつて、喜び且つ悲しみつつ此の文を草して英靈の前に捧ぐ。

千九百二十七年四月二十九日

ウヰリアム、エリオット、グリフキス

坂手一成 さかて かずなり 令和二年没（享年八三才）

福井大卒。1962年に志比中教諭となり、以来35年間にわたって小中学校や福井市教委、県教委で教育の充実に尽力。

瑞宝双光章
坂手一成 74 さかて かずなり
教育功劳



特に国語教育の研究に力を入れた。森田小や明倫中の校長時代には学校行事で地域との連携を推進した。福井市。

（福井新聞記事より転載）